

令和4年 賀詞交換会 学長挨拶

あけましておめでとうございます。

教職員の皆さんには年の初めのお忙しいところ、賀詞交換会にご参加いただきありがとうございます。年末年始をどのようにお過ごしになられたでしょうか。新型コロナウイルス感染症の新規感染者数が少し落ち着いていたことから、正月休みに帰省された方も多いと報道されておりました。2年ぶりに懐かしい人と会うことができた方もおられたのではないのでしょうか。

さて、今年の賀詞交換会も、昨年同様、新型コロナウイルス感染症対策と埼玉大学を支える全員で新年の顔合わせを行う場として Zoom での開催とさせていただきました。

まず、昨年を振り返ってみますと、昨年1月には新型コロナウイルスの第3波、5月には第4波、そして8月には第5波の感染ピークが見られ、一昨年同様、新型コロナウイルス感染拡大防止のために様々な対応を強いられた一年でありました。この間、埼玉県では、緊急事態措置やまん延防止等重点措置に基づく協力要請が10回以上出され、本学もその都度、対応して来ました。

授業はハイフレックス方式を中心として展開しましたが、学生のアンケートを見ると、約90%がオンライン授業に満足できる、ある程度満足できると評価しています。また、学生支援として、昨年も埼玉大学基金を原資とした「埼玉大学緊急支援奨学金」やクラウドファンディングを利用したフード支援プロジェクト「100円食堂」などを行うことができました。しかし、学生の皆さん、特に1年生、2年生はまだコロナ禍前のような学生生活を経験できていないこととなります。来年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止に努めつつ、対面授業とオンライン授業のベストマッチを検討しながら、以前の状態に戻していきたいと思います。

研究面では、新たな戦略的研究領域の設置に向けての取り組みや、埼玉医科大学との包括連携協定に基づく共同研究が開始されました。多くの先生方が学会賞や学術賞を受賞され、また、基礎、応用分野で多くの研究成果が報告されています。

社会貢献としては、経済学部主催の「自治体のためのSDGsプログラム」、ダイバーシティ推進室による「彩の国女性研究者ネットワークシンポジウム」、理工学研究科の先生方による様々な企業向けワークショップなど、本学のもつ知を社会に向けて発信する活動もたくさんありました。

新型コロナウイルスワクチンの大学拠点接種等、平常時には起こり得なかった対応業務がたくさんある中で、大学として大きな混乱を起こさないだけでなく、様々な成果を得て無事に新年を迎えることができたのも、ひとえに教職員お一人お一人のご尽力の賜物です。この場を借りて、全ての教職員へお礼を申し上げます。ありがとうございました。

令和4年1月5日

ここで、教職員の皆さんに、入試についてのお願いがあります。1月15日、16日には大学入学共通テスト、そして2月、3月には個別試験が行われます。

入試業務は、アドミッションポリシーに沿って、学生を選抜する、大学にとっていわばエッセンシャルワークとも言うべきものです。受験生のためにも、運営を担当する教職員のためにも、最大限の感染症対策を行いつつ、入試を実施したいと思えます。こちらへのご協力も引き続きよろしくお願いいたします。新年のこの機会に、各入試会場を運営される方は感染防止策を再度チェックしてください。どうぞ、よろしくお願いいたします。

オミクロン株の出現や第6波の可能性の指摘などを見ると、しばらくは気を引き締めて感染防止を心がける必要があります。しかし、新型コロナウイルス感染症が蔓延し始めた頃に比べると、ウイルスの特性、対処法や治療法が徐々に明らかにされ、さらにはワクチン接種も進みました。歴史を振り返ってみても、人類は感染症の脅威に何度もさらされながら、科学的な知見を積み重ね、それに打ち勝ってきています。

昨年も申しましたが、この状況が好転し、新型コロナウイルス感染症が脅威でなくなる日は必ずやってまいります。希望を持って、役教職員一丸となり、この難局を乗り越えるとともに、本学の持つ教育、研究、社会貢献の力を最大限発揮できるようにお互い一層努力してまいりましょう。

最後になりましたが、皆さんと皆さんのご家族にとって、今年が充実し、幸多い一年となることを祈念して、念頭の挨拶とさせていただきます。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

令和4年1月5日

埼玉大学長 坂井 貴文